

1 目的と期待される効果

（1）目的

普通科の教育課程において、地理歴史、公民に関する各科目の内容をグローバル・リーダー育成の目的で編成し直した学校設定教科「グローバルラーニング（GL）」を設定する。当該学校設定教科の学習を通して、日本と世界の諸地域の歴史・伝統や言語・生活・文化の地域的特色への興味・関心を高め、基本的な概念や制度、人間の生き方等について理解を深めるとともに、国際社会で活躍する上で必要な思考・判断・表現する能力、語学力、語彙力、コミュニケーション能力を養う。

（2）期待される効果

この科目の学習を通して、グローバルな社会課題に対する関心と解決に向けた意欲が高まり、探究心、コミュニケーション能力が身に付くことが期待できる。

2 内容

次の①～⑥を学校設定科目として設定する。

- ① GL世界史（世界史Bの代替）普通科1年
- ② GL日本史（日本史Bの代替）普通科2年（選択）
- ③ GL地理（地理Bの代替）普通科2年（選択）
- ④ GL倫理（倫理の代替）普通科3年
- ⑤ GL政治・経済（政治・経済の代替）普通科3年
- ⑥ GLアクティブ（原則として週時程外で実施）普通科1～3年

3 実施方法

上記の①～⑥学校設定科目については、代替する科目の内容をグローバルな視点を重視して見直し、積極的にICT機器を活用して、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

なお、⑥「GLアクティブ」は、国内グローバル研修、海外グローバル研修、大学や企業、研究施設等における講義や講習等の出席状況や研修成果、活動状況等を評価に加え、単位を認定する。

4 検証評価方法

入学した直後に普通科の生徒及び保護者に対して「グローバル・リーダー」に関するアンケート調査を行う。1年後、2年後に同様のアンケート調査を行い、変容を見る。調査結果はSGH運営指導協議会で検証し、評価する。また、教員にもアンケート調査を4月及び年度末に行い、教員の意識の変容を見る。さらに、卒業時の大学進学実績をこれまでのものと比較検討し、検証評価する。大学卒業後についても、追跡調査を行う。

5 実施内容

（1）「GL政治・経済」による「GL探究」との横断的授業

生徒が「GL探究」の中で発表した課題研究を取り上げ、主権者教育の視点でGL政治経済の

授業を実施した。

「GL政治・経済指導案」

- 1 実施時期 平成30年6月中旬
- 2 対象クラス 3年普通科(7クラス)
- 3 使用教材
 - ・教科書「政治・経済」(東京書籍)
 - ・副教材「政治・経済 資料2018」(とうほう)
 - ・SGH課題研究発表PPT(生徒が2年次の3月校内課題研究発表会で発表したもの)別添
 - ・ワークシート(18歳選挙権に向けて(清水書院), 自作プリント, ルーブリック)
「私たちが拓く日本の未来」(総務省・文部科学省)

4 単元名 現代政治の特質と課題

5 単元目標

民主政治の本質や現代政治の特質について把握し、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察する。

6 単元全体の指導計画

- (1) 戦後政治と政党(1時間)
- (2) 選挙と政治意識(1時間) SGH課題研究発表(8分)を含む
- (3) 世論と政治参加(1時間) 本時

7 本時の目標

- (1) 前時の選挙と政治意識(特に若者)の授業を踏まえ、資料(新聞)に掲載されている憲法、経済・社会保障、原発・復興、教育、外交・安全保障のマニフェスト要約から、各党の立ち位置を読み取ることができる。
- (2) 投票の判断材料になる各政党の政策を新聞から比較・検討し、他者と話し合いながら自分の優先すべき政策を選択できる。
- (3) 模擬投票をする前の話し合いを通して、互いの考えを深め、各党の政策を他国の政策と比較できる。

8 本時の指導展開

| 段階 (配当時間) | 具体的な評価規準 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 |
|--------------|------------------------------------|---|---|
| 導入 (7分) | | ・政治参加への意識を高めるため、前時に発表してもらったSGH課題研究発表(日本の選挙をよりよくするには)を確認するとともに、本時の具体的な学習目標を知る。 | ・本時の目標について簡潔に説明する。 ルーブリック及び資料を配付する。 |
| 展開 (38分) | ・資料を読み、各政党の政策を把握し主体的に検討することができる。(思 | ・資料(2017年衆議院議員総選挙マニフェスト要約)を各自読む。 ・各党のマニフェストのうち | ・資料の中で自分が重要だと思うテーマを決め、そのテーマの各政党のマニフェストを比較させる。 |

| | | | |
|-------------|--|---|---|
| | <p>考・判断・表現, 課題解決能力)</p> <p>・資料を活用し, 異なる立場や考えを踏まえて政策について検討し, よりよい政策について考えている。(コミュニケーション能力, 創造的提案)</p> | <p>自分の考えに近いものを選択し資料に自分の考えを記入する。</p> <p>・グループに分かれ, 自分の関心のある政策と他の生徒の関心のある政策の比較などを通じて投票先の判断について考えを深める。</p> <p>・各グループの代表者にグループ内で出た意見を発表する。</p> <p>・意見交換をもとに模擬投票する(今回の投票は政党(比例区)のみ)。</p> | <p>・机間指導により, 随時アドバイスをする。</p> <p>・グループ内で意見交換をさせる。</p> <p>・意見交換の中で, 自分の意見が変わっても良いことを伝える。</p> <p>・他の人の意見も記入させる。</p> <p>・佐倉市選挙管理委員会の方と各グループをまわり, 指導・助言を行う。</p> <p>・佐倉市選挙管理委員会の方に投票の際の注意事項をお話していただく。(5分)</p> |
| まとめ (5分) | | <p>・ルーブリック(自己評価)を, 次の時間に提出する。</p> | <p>・選挙の原則(普通・平等・秘密・自由)を確認する。</p> <p>・ルーブリック(自己評価)は, 次の時間までに記入するよう指示する。</p> |

9 ルーブリック 項目【 】は, 本校で身に付けさせたい能力等である。

| 3年 GL政治経済 課題の発見・解決に向けた実践的な学習(模擬投票の授業)自己評価 3年 組 番 氏名 | | | | | | |
|--|---|--|-------------------------------------|---------------------------------|--|--|
| 資質・能力 | 評価 | | | | | 評価材料 |
| | S(4) 求めているレベル以上である | A(3) 求めているレベルに達している | B(2) 求めているレベルに概ね達している | C(1) 求めているレベルにもう少しで達する | | |
| 国家・社会の形成者として必要な選択・判断を主体的に行い, 他者と協働しながら様々な課題を解決していく力【思考・判断・表現・情報活用能力・コミュニケーション能力・課題解決力】 | 投票の判断材料になる各政党の政策を新聞から比較・検討し, 他者と話し合いながら自分の優先すべき政策を選択できた。 | 投票の判断材料になる各政党の政策を新聞から比較・検討し, 自分の優先すべき政策を選択できた。 | 投票の判断材料になる各政党の政策を新聞から比較・検討できた。 | 投票の判断材料になる2つ以上の政党の政策を新聞から比較できた。 | | ・新聞記事 ・個人の政策・グループでの話し合いと話し合い後のクラス全体での発表 |
| 社会参画への意欲や態度 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚【コミュニケーション能力・創造的提案】 | 模擬投票をする前の話し合いを通して, 互いの考えを深め, 4つの政策を他国の政策と比較し, よりよい政策を提案できた。 | 模擬投票をする前の話し合いを通して, 互いの考えを深め, 自分でよりよいと思う政策を選択できた。 | 模擬投票をする前の話し合いを通して, 互いの考えを深めることができた。 | 模擬投票をする前の話し合いに参加することができた。 | | ・資料 ・個人の政策・グループでの話し合いと話し合い後のクラス全体での発表 |

項目に基づく全体評価
Sが1つ以上かつB,Cが0=S(4)、Sが1かつCが0=A(3)、Sが0かつCが1=B(2)、Sが0かつCが2=C(1) **S、A、B、C**

全体評価 下のいずれかに○をつけてください。

模擬選挙を振り返ろう

- 1 実際の2017衆院選結果となぜ結果に差がでたか(出なかったか)
- 2 結果を受け手の自分の感想とグループの感想
- 3 有権者になるに当たって考えたこと

※ 授業(前時)で生徒が発表した課題研究のライド

日本の選挙をよりよくするにはどうすればよいか?

旧A組4班 佐藤瑞奈 石井達也 新井翔馬
大野真希 郡司用 鈴木保輔

去年の十月に行われた衆議院選挙の投票率は何%だったと思いますか?

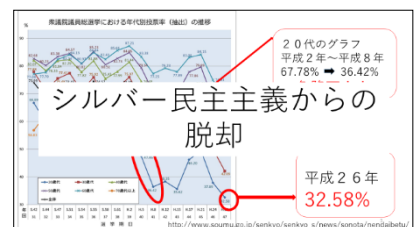
① 53.68%

② 50.68%

③ 63.68%

ヒント 前回の投票率: 52.66%

<http://www.yomiuri.co.jp/election/shugi/2017/news/20171023-QY1T50133.html>



| | | |
|---|--|---|
| <p>目的： 若者の投票率を上げたい！</p> <p>・方法Ⅰ 日本選挙の投票を義務化に → 国民全員の投票</p> <p>・方法Ⅱ インターネットでの投票を可能に → 若者の票が集まりやすく</p> | <p>10代の投票率</p> <p>H28 参議院選挙：46.78%</p> <p>H29 衆議院選挙：41.51%</p>  | <p>平成29年3月26日執行 第20回千葉県知事選挙</p> <p>1 投票率について</p>  <p>結局はメディアの影響</p> |
| <p>大学生の投票における問題点</p> <p>※大学生74人に 2017年6~8月に実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在住先での投票権がない 2. 忙しい 3. 投票についてよくわからない | <p>仮説1：投票の義務化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メリット 国民全員が政治に参加 ・デメリット 投票しない権利を失う | <p>選挙に関する授業を受けたことがありますか？</p>  <p>☆選挙への興味関心が薄く！</p> <p>※10~20代のオーストラリアの学生42人が回答</p> |
| <p>仮説2：インターネットでの投票</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ☆自宅での投票が可能に！ 2. ☆時間の制限が緩くなる 3. ☆その場での情報収集ができる <p>解決！</p> | <p>例：エストニアでインターネットの投票</p> <p>IDカード → マイナンバーカード</p> <p>「電子政府」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの個人情報の閲覧 ・確定申告 ・選挙の投票 etc... | <p>案) マイナンバーカードの利用</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 詐欺→低リスク 情報の共有がスムーズ 人件費の削減 無効票の削減 投票する際の負担削減 |
| <p>問題点</p> <p>物理的 (例) 佐倉市</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回の選挙で約400万 インターネット 400人~500人以上のアルバイトと職員 取り組みた <p>技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ ・サーバーの負荷 <p>情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢によるメディア格差 ・秘密選挙の維持 | <p>展望・提言</p> <p>☆小さい規模での実施</p> <p>EX) 学校での生徒総会で運用</p> <p>↓</p> <p>政府に！</p> <p>徐々に拡大する</p> | <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙の効率化 ・投票の利便性 <p>↓</p> <p>インターネットの需要</p> |

(2) GLアクティブ

大学との連携、関係機関との連携、海外研修等に係るGLアクティブについては後の該当箇所に記載し、ここでは、それ以外の実践を示す。

ア 『世界高校生水会議「Water is Life 2018」』

(ア) 日 時 平成30年7月24日(火)~28日(土)

(イ) 場 所 渋谷教育学園渋谷中学高等学校及び渋谷教育学園幕張中学高等学校

(ウ) 対 象 4名(2年生希望者)

(エ) 目 標 海外の高校生とグローバルな課題について自分の考えをプレゼンテーションしたりディスカッションしたりすることで、他国の考え方を理解し課題研究を深める一助とする。

(オ) 内 容 講演、ワークショップ、水に関する化学実験等に参加するとともに、世界18か国(107名)の高校生及び本校以外の日本の高校生28名と水に関するグローバルな課題について英語で議論するなどの活動を行った。3日目は参加高校生がオーラルプレゼンテーション及びポスタープレゼンテーションを行った。本校生徒は、「Team RISKIT」として、「Preserving the Native Eco-System of the Inba Swamp」というテーマで発表し、印旛沼でナガエツルノゲイトウという外来植物が繁殖し、水質汚染や生態系への悪影響のみな

らず農業や洪水排水作業に支障をきたしていることを課題として取り上げ、高校生ができる解決へ向けた取組について提案した。その結果、Stewardship & Polisy 部門で第3位であった。



イ 『高校生によるまちづくりワークショップ』

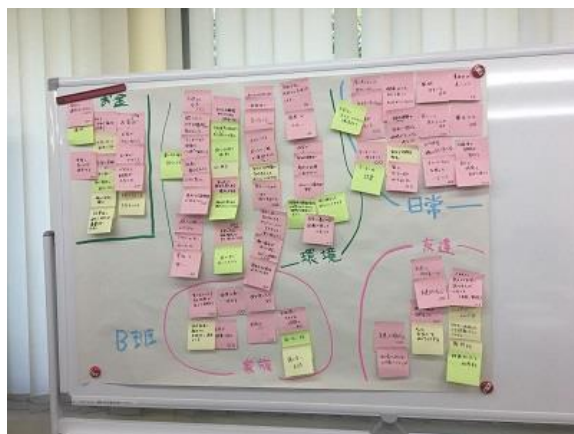
(ア) 日 時 平成30年8月10日 (金)

(イ) 場 所 佐倉市役所

(ウ) 対 象 7名 (2年生希望者)

(エ) 目 標 地域の課題を理解し解決するための方法を考えることで、グローバル化と地域の関係について理解を深めるとともに、課題研究の一助とする。

(オ) 内 容 「佐倉市総合計画策定のための高校生によるまちづくりワークショップ」に参加し、「今後の佐倉市のために市役所がすべきこと、市民ができること」というテーマのもと、市内の他の高等学校の生徒とともに付箋にアイデアを書き出し、それらを模造紙に貼り、考えをまとめた。この活動を通じて、生徒は佐倉市の状況を踏まえ、佐倉市をよりよくするための対策について考えることで、課題研究を深めることができた。



ウ 『醸造文化，地域活性化を学ぼう』

(ア) 日 時 平成30年8月22日 (水) 12時30分～17時

(イ) 場 所 ちば醤油 (株) (香取市)

佐原重要伝統的建造物群保存地区 (香取市)

(ウ) 対 象 17名 (1・2年希望者)

(エ) 目 標 醤油醸造工場ならびに重要伝統的建造物群保存地区を見学し、日本における醸造・発酵文化を通じた地域活性化について考察する。また、ハラール認証を取得し、イスラム圏に輸出している醤油を通して日本の食品の可能性について考え、研究課題を見付ける一助とする。

(オ) 内 容 ちば醤油 (株) では最初に生産ラインを見学し、原料加工の様子や伝統的な木樽での仕込みの様子、出来上がった醤油を絞る過程などを見学させていただいた。醤油を醸造するだけでなく、関連する製品の幅広さなどについて解説していただいた。工場見学後の質疑応答では、伝統的な製法を守ることの難しさ、ハラール醤油を開発し商品化した経緯や製造上の苦勞などを伺うことができた。

佐原重要伝統的建造物群保存地区では、建造物を保存しながら店舗や醸造工場として活用している様子を見学した。また、それらが観光資源として地域活性化に結びつけられている様子を学んだ。また、地域を紹介するパンフレットが複数の言語で作られている様子を見て、課題研究の発表の参考になったという生徒も見られた。

